

令和 6 年度事業報告

(令和 6 年 4 月 1 日－令和 7 年 3 月 31 日)

I. 会員数 (令和 7 年 3 月 31 日)

- | | | |
|----------------------|--------|---------|
| (1) 名誉会員 | | |
| 令和 6 年 3 月 31 日会員数 | 7 名 | |
| 名誉会員現在数 | 6 名 | (1 名減) |
| (2) 正会員 | | |
| 令和 6 年 3 月 31 日会員数 | 1011 名 | |
| 令和 6 年度新入会員数 | 49 名 | |
| 令和 6 年度退会者数 | 112 名 | |
| 内訳 | 希望退会者 | 110 名 |
| | 物故者 | 2 名 |
| 正会員現在数 | 948 名 | (63 名減) |
| (3) 維持会員 | | |
| 令和 6 年 3 月 31 日維持会員数 | 95 社 | |
| 令和 6 年度入会社数 | 2 社 | |
| 令和 6 年度退会社数 | 4 社 | |
| 維持会員現在数 | 93 社 | (2 社減) |

II. 第 71 回通常総会

開催年月日： 令和 6 年 5 月 30 日

開催場所： ロームシアター京都サウスホール

III. 理事会、理事・評議員懇談会

- | | |
|---------------|-------------------------|
| (1) 理事会 | 4 回開催 |
| ① 第 1 回 | 開催年月日： 令和 6 年 5 月 10 日 |
| | 開催場所： 東京大学弥生講堂アネックス |
| ② 第 2 回 | 開催年月日： 令和 6 年 5 月 30 日 |
| | 開催場所： みやこめっせ大会議室 |
| ③ 第 3 回 | 開催年月日： 令和 6 年 11 月 8 日 |
| | 開催場所： 東京大学山上会館地下 1 階会議室 |
| ④ 第 4 回 | 開催年月日： 令和 7 年 3 月 5 日 |
| | 開催場所： オンライン開催 |
| (2) 理事・評議員懇談会 | 1 回開催 |
| | 開催年月日： 令和 6 年 5 月 28 日 |

開催場所： みやこめっせ大会議室

IV. 定期学術集会の開催

第 70 回日本実験動物学会総会を下記のとおり開催した。

会 期： 令和 6 年 5 月 29 日（水）～31 日（金）

会 場： みやこめっせ、ロームシアター京都

会 長： 浅野雅秀（京都大学）

参加者： 1,260 名

V. 定期刊行物の発行

「Experimental Animals」および「実験動物ニュース」を下記のとおり発行し、公開した。

発行年月日	巻	号	備 考
2024 年 4 月 1 日	73	2	
2024 年 7 月 1 日	73	3	
2024 年 8 月 1 日	73	Supplement	Proceedings of the 71st JALAS Conference
2024 年 10 月 1 日	73	4	
2025 年 1 月 1 日	74	1	

VI. 研究の奨励、業績の表彰

(1) 令和 6 年度学会賞受賞者を表彰した。

1) 功労賞（2 名）

落合 敏秋 会員（ハムリー株式会社）

山田 靖子 会員（国立感染症研究所）

2) 安東・田嶋賞（1 名）

真下 知士 会員（東京大学）

「実験動物学におけるゲノム編集および新しいモデル動物の開発研究」

3) 奨励賞（1 名）

渡邊 正輝 会員（北里大学）

「アドリアマイシン腎症モデル及び TRECK 法を用いたポドサイト障害モデルの開発」

4) 2023 年 Experimental Animals 最優秀論文賞（3 編）

○藤井 颯、中田 雄太、加藤 容子

Rescue of oocytes recovered from postmortem mouse ovaries

「死亡マウスから回収した卵子の生存性向上に関する検討」

- 森 政之、代 健、宮原大貴、李 瑩、亢 暁静、吉見 一人、真下知士、樋口 京一、松本 清司

Cyba and *Nox2* mutant rats show different incidences of eosinophilia in the genetic background- and sex-dependent manner

「*Cyba* と *Nox2* 変異ラットは遺伝的背景および性別に依存した異なる好酸球増多症の発症率を示す」

- 何 裕遥、伊藤 亮治、野津 量子、富山 香代、植野 昌未、小倉 智幸、高橋 利一

Establishment of a human microbiome- and immune system-reconstituted dualhumanized mouse model

「ヒト微生物叢と免疫系を再構築したデュアルヒト化マウスモデルの確立」

5) 第71回総会 優秀発表賞

- 飯田 龍哉、石田 紗恵子、Jinxi Wang、服部 晃佑、吉見 一人、山崎 聡、真下 知士

「造血幹細胞の生着を許容する新規 Kit 変異ラット」

- 水野 直彬、長野 寿人、佐藤 秀征、水谷 英二、柳田 絢加、加納 麻弓子、笠井 真理子、山本 祐美、渡部 素生、サッチー ファビアン、正木 英樹、金井 正美、中内 啓光

「細胞競合と胎仔発生環境を用いた完全な移植用皮膚片の作成」

- 下谷 和人、馬場 重典、森脇 崇史、阿部 智志、岡田 茜、香月 加奈子、香月 康宏

「染色体工学技術を用いたヒト抗体重鎖・ λ 軽鎖遺伝子全長を保持する完全ヒト抗体産生マウスの開発」

(2) 2023 年日本実験動物学会国際賞の表彰を行った。

2023 年受賞者 (5 名)

マレーシア	: Ms. Siti Nor Hikmah Abdul Rasid
フィリピン	: Mr. Joannes Luke Bognot Asis
シンガポール	: Dr. Yuek Ling Chai
スリランカ	: Dr. Arachchillage Anusha Indukumari Senevirathne Menike
タイ	: Dr. Nisachon Apinda

(3) 令和7年度学会賞受賞者を選考した。

1) 功労賞 (1 名)

安居院 高志 元会員 (北海道大学)

2) 安東・田嶋賞

該当者なし

3) 奨励賞 (2 名)

中野堅太 会員 (国立国際医療研究センター研究所)

「異種膵島移植のための重度免疫不全マウスを背景とした新規糖尿病モデルマウスの樹立」

坂本晃海 会員 (実中研)

「実験動物の 3Rs に貢献できる非侵襲的なデバイスの開発」

4) 2024 年 Experimental Animals 最優秀論文賞 (3 編)

○柄内亮太、木村公一、雑賀 彪、藤井 渉、森田啓行、中西弘毅、水流功春、関澤信一、山内啓太郎、桑原正貴

Ivabradine ameliorates cardiomyopathy progression in a Duchenne muscular dystrophy model rat

「イバブラジンはデュシェンヌ型筋ジストロフィーモデルラットにおける 心筋症の進行を抑制する」

○進導美幸、寺尾美穂、高田修治、一ノ瀬実、松坂恵美、横井 匡、東 範行、水野聖哉、津村秀樹

*Establishment and visual analysis of CBA/J-*Pde6b*^{Y347Y/Y347X} and C3H/HeJ-*Pde6b*^{Y347Y/Y347X} mice*

「CBA/J-*Pde6b*^{Y347Y/Y347X} マウスと C3H/HeJ-*Pde6b*^{Y347Y/Y347X} マウスの樹立と視覚解析」

○渡邊正輝、二階堂優子、佐々木宣哉

Validation of the anesthetic effect of a mixture of remimazolam, medetomidine, and butorphanol in three mouse strains

「レミマゾラムベシル塩酸を含むマウス用三種混合バランス麻酔薬の評価」

VII. 研究・調査活動

編集委員会、学術集会委員会、財務特別委員会、国際交流委員会、広報・情報公開検討委員会、動物福祉・倫理委員会、定款・細則・規定等検討委員会、実験動物感染症対策委員会、教育研修委員会、実験動物管理者研修制度委員会、人材育成委員会、将来検討委員会、動愛法等対策委員会、外部検証委員会を設置し、活動を行った。

VIII. 動物実験に関する外部検証

令和 6 年度動物実験に関する外部検証事業として 32 機関（国立大学 7 機関、公私立大学 21 機関、その他の文部科学省所管 1 機関、文部科学省所管外 3 機関）の外部検証を実施した。（外部検証委員会担当）

IX. 外部検証のための人材育成

文部科学省のナショナルバイオリソースプロジェクト「外部検証推進のための人材の育成と活用」の課題を推進した。国動協、公私動協及び日本実験動物学会から推薦された外部検証専門員候補者 4 名に対して外部検証促進のための人材育成講習会ならびに調査随行の課程を実施した。（人材育成委員会担当）

X. 関連学協会との連携

(1) 日本学会会議、生物科学学会連合及び動物実験関係者連絡協議会の活動に協力した。

- (2) 国内の関連学会・協会との学術・情報交換を進め、その活動に協力した。
- (3) 国際実験動物科学会議（ICLAS）及びアジア実験動物学会連合（AFLAS）における活動を継続した。
- (4) 韓国実験動物学会（KALAS）など、海外関連学協会との学術・情報交流を推進した。
- (5) 公益財団法人実験動物中央研究所 ICLAS モニタリングセンターおよび日本動物実験代替法評価センター（JaCVAM）など実験動物・動物実験に携わる機関の活動に協力した。

XI. その他

- (1) 第20回実験動物管理者等研修会を開催した。（実験動物管理者研修制度委員会担当）
令和 6 年 12 月 3 日（火）～4 日（水）
会 場：東京大学農学部 3 号館 4 階会議室
参加者合計：156 名（会員 43 名、維持会員団体職員 17 名、非会員 96 名）
- (2) 第12回実験動物科学シンポジウムを開催した。（学術集会委員会担当）
テーマ：「動物学研究を支える実験動物科学」
令和 6 年 11 月 1 日（金）
会 場： 沖縄県立博物館・美術館（おきみゅー）3 階講堂
参加者合計： 69 名
- (3) 令和 6 年度維持会員懇談会を開催した。（財務特別委員会担当）
テーマ：「動物実験の規制-動物愛護管理法の改正を見据えて-」
令和 6 年 11 月 8 日（金）
会 場： 東京大学山上会館／ライブ配信
参加者合計： 140 名（会場 62 名、オンライン 78 名）
- (4) 動物実験の外部検証：令和 7 年度の実施準備に向けた事前説明会を開催した。（人材育成委員会担当）
令和 7 年 1 月 31 日 東京大学山上会館／ライブ配信
参加者合計： 152 機関、397 名（会場 35 名、オンライン 362 名）
- (5) 第 74 回日本実験動物学会総会の大会長を選出し開催概要を決定した。

会 期：令和 9 年 5 月 26 日（水）～28 日（金）（予定）

会 場：福岡国際会議場（予定）

大会長：中潟 直己（熊本大学）